県立広島大学 Prefectural University of Hiroshima

地域連携センター報

Vol. 9

COMMUNITY LIAISON CENTER

平成21年10月10日発行

県立広島大学地域連携センター
〒734-8558 広島県広島市南区宇品東一丁目1番71号 電話082-251-9534 E-mail:renkei@pu-hiroshima.ac.jp

県大生のまごころパワー in 江田島

江田島市との協働プロジェクト「えたじま健康・長寿のまちづくり」では，健康科学科の教員だけでなく，大学院生・学生たちも積極的に参加し活躍しています。

7月には15日間にわたって，本学のスタッフ延べ73名（うち学生49名）が江田島市の9つの健診会場に出かけ，食べる力などのアンケート調査やヘモグロビン測定などを行いました。アンケート回答者数は1,340人で，現在，4年生が健診結果等と合わせてデータの集計と分析を行っています。

また，8月22日と30日にも「江田島すこやか健康まつり」を2会場で開催しました。参加した本学スタッフは延べ37名，うち学生が26名になります。このイベントでは，学生が4つの企画を準備しました。その1つ「えたじまクイズ」は，江田島の地産地食をテーマとした劇です。住民参加型のクイズも交え会場は盛り上がり，学生のパワーもはじけていました。「みんなでエクササイズ」「えたじまビンゴ大会」「体験コーナー」でも，総合司会から運営まで学生がつとめ，学生中心のお祭りとなりました。この模様は広島テレビ「旬感テレビ派ッ！」で，8月26日に特集として放映されました。今後は市内各所で健康教室を開催します。

参加した学生たちの声

- 江田島市にはスポーツクラブなどが少ないので，継続して運動ができる，また楽しんで参加してもらえる活動にしたいと思います。
- 住民の皆さんに健康について考えていただくだけでなく，そのための実践と継続ができるように，私たち学生も頑張ります。例えば，健康教室では，若くなるための食事を担当します。

三原キャンパス

MIHARA CAMPUS

包括協定と連携事業

尾道市との包括協定と連携事業

２月10日に，本学と尾道市との間で包括的連携・協力協定を締結しました。本協定により，県立広島大学においては，広範囲な教育・研究面の向上及び地域社会への貢献を，尾道市においては，地域課題の解決及び「活力あふれ感性息づく芸術文化のまち尾道」をテーマとするまちづくりの一層の推進を目的として，つぎの事項について連携・協力して取り組んでいきます。

① 多様な交流の輪が広がるまちづくりの推進に関すること。
② 活力あふれる産業が育つまちづくりの推進に関すること。
③ 尾道の持つ感性の豊かさが誇りになるまちづくりの推進に関すること。
④ 市民と市が協働し，ともに創るまちづくりの推進に関すること。
⑤ 心豊かに育ち，学び高めあうまちづくりの推進に関すること。
⑥ 暮らしの安全性と快適性が高いまちづくりの推進に関すること。
⑦ 子育てや長寿を楽しみ，誰もが幸せに暮らせるまちづくりの推進に関すること。
⑧ 県立広島大学と尾道大学との大学間協力に関すること。
⑨ その他目的を達成するために必要な事項に関すること。

今年度は「子育て支援システムの構築」，「高齢者障害者等への健康福祉支援」，「県立広島大学と尾道大学の学生交流事業の実施」等を主要なテーマとして取り組みを進めています。

（調印後の赤岡 功学長と平谷祐宏尾道市長）

公 開 講 座

三原シティカレッジ 市民講座 －英語学習への誘い－

英語を学習したいと思っている方や興味がある方を対象に，英語のさまざまな世界に触れる機会を提供するため，2006年度から毎年夏に，１週間にわたる英語講座を開催しています。

「英語再入門」，「英語学習への誘い」などのテーマで，３名の講師が初心者にも分かりやすい多様な内容の講座を開いています。

これまで，「ハリーポッター」の映画や英語の詩，英語の語源などを用いた，英語学習のヒントを提供する講座や，「ルパン三世」，「ローマの休日」や「カサブランカ」などの映画を使った英会話のクラスがありました。また，英語の資格として幅広く認められているTOEICの対策講座や，心理言語学を体験する講座もあり，学習者が興味をもつ教材を用いて，様々な内容で講座を行っています。英会話のクラスにおいては，教材である映画のDVDを見ながら，英語の表現の練習をし，講師や初対面の受講者同士で会話を楽しむ様子が見られました。

毎回，20～30名程度の受講者が参加しています。受講者は，高校生から70代の方まで幅広い年代にわたり，その英語力，英語学習の履歴も様々です。興味のある講座のみに参加される方や時間が許す限り全ての講座に参加される方もいます。また，毎年この講座を楽しみにして継続して受講されている熱心な受講者もいます。どの受講者も英語力をアップしようと積極的に参加されています。

日ごろから疑問に思っていることを尋ねたり，英語の学習についてのアイデア交換をする場にもなっているようです。

三原シティカレッジの内容については下記のホームページをご覧ください。
http://www.mhr-cci.org/renkei/

地域連携

健康情報提供番組　－三原市チャンネル－

三原市民の健康づくりの推進に貢献できることを目的とし，平成19年９月からケーブルテレビ「三原テレビ放送」の広報番組「三原市チャンネル」に参加し，番組の一部として健康情報を提供しています。三原市チャンネルの健康情報番組では，主に看護学科の教員を中心に専門知識を活かしたものや最近話題になっていることを取り上げ，三原市民の健康増進や疾病予防に少しでも役立てばという思いで取り組んでいます。過去に放送した内容の一例としては，三原市民を対象とした研究結果をもとに骨粗しょう症予防をテーマとして，「骨を元気に」「骨によい運動」「骨によい食事」に焦点をあて３回にわたって放送を行いました。最近の放送内容では「自分の体を見直そう」というテーマで，８回に分けて「検査について知ろう」「動脈硬化の心配な人へ」「乳がんが心配な人へ」「痛風が心配な人へ」などを放送しています。

放送時間は月・土・日は７：15～７：30，12：15～12：30，19：15～19：30の３回，火曜～金曜日は23：15～23：30の時間帯がプラスされて１日に４回放送されています。

番組内容について，ご質問，ご感想，または今後取り上げてほしいテーマ等がありましたら，ご一報いただければ幸いです。

※「三原市チャンネル」の放送スケジュール（三原TVコミュニティチャンネル2ch）

放送月	放送内容
10月	肝機能が心配な人へ
11月	認知症を予防しよう
12月	正しく知ろう！ 認知症

「三原市チャンネル」の健康情報番組の詳しい放送時間については，三原テレビ放送ホームページ（http://www.mcat.co.jp/）の『コミチャン番組表』をご参照ください。

研究紹介

ライフワークとしての義手を含む福祉用具の開発 －最近は遊びと健康と観光としての砂浜ウォーク－

保健福祉学部理学療法学科　教授　大　塚　　彰

師事し育てて頂いた偉大な恩師に方向付けられ，これまでテーマとしてきたのは，サリドマイド薬禍障害児に対する電動義手であり，また，進行性筋ジストロフィー症児・者のための生活支援用具の開発・研究です。なかでも，電動義手に関しては本当に長い期間の研究にもかかわらず，未だに更なる成果を追い求めています。生活支援用具，換言すれば福祉用具ですが，こちらも自分の目の前にいる方々を対象とした個別的な仕事をしてきましたので，何か自己満足で完結しているように感じています。ただ，時勢に乗っかったテーマにずいぶん助けられました。おかげで，電動義手に関しては「日本義肢装具学会第２回土屋和夫論文賞」・「日本医科器械学会平成15年度論文賞」，福祉用具関連では「IEEE Robotics and Automation Society, 2003 King-Sun FU Memorial Best Transactions Paper Award」・「日本義肢装具学会飯田賞本賞」などを頂けたのは，良き時勢と良き仲間たちに恵まれた結果と感謝しています。

現在はその良き仲間達に支えられて，こちらも，時勢に便乗したような「健康・観光・地域おこし」に三原市佐木島での砂浜ウォークに取り組んでいます。周りからは遊んでいるような（実際，遊んでいるのですが…）研究に観られていると感じながらやっています。これについては，福山市松永の「下駄」の研究に始まります。ある時，昼食を食べながら同僚に下駄の機能性に関して，大風呂敷の自論を広げた直後に松永から共同研究の話を頂きました。そこから歩くことに関連した研究が広がってきました。その時，またまた出雲の神様のような縁，佐木島の美しい砂浜の活用の話があり便乗，今現在，砂浜のスペシャリストのような顔で活動させて頂いています。三原キャンパスで「こそ」の研究をさせて頂き，感謝！

今後の講座のご案内

●第7回 脳をみるシンポジウム in 三原

テーマ　「リハビリテーション」

日　時　平成22年3月6日（土）13:30～16:30
場　所　三原リージョンプラザ

●広島保健福祉学会 第10回学術大会

テーマ　「地域住民のニーズに応える がん医療・看護のネットワークづくり」

日　時　平成21年12月5日（土）
場　所　県立広島大学三原キャンパス

広島キャンパス

HIROSHIMA CAMPUS

包括協定と連携事業

2009廿日市市健康づくりシンポジウム

地域協働戦略プロジェクト「地産地食による健康づくり支援に関する研究～健康はつかいち21の実現に向けて～」の一環として，シンポジウムを８月19日に開催しました。食生活改善推進員，母子保健推進員といった健康づくりに関する組織や，市民約300名が出席し，活発な討論が行われました。このプロジェクトは引き続き地域の健康づくりの活動の発展と，食を中心とした生活習慣に関する正しい知識の普及啓発の充実を図るよう活動します。

江田島市と包括的連携・協力協定を締結

県立広島大学は３月25日に江田島市と包括的連携・協力協定を締結し，江田島市民からのニーズに応える地域貢献を実践します。この度，江田島市とは健康，教育，環境，産業，文化などの市民生活における質的向上と充実を目指し，本年度の協働プロジェクトとして「えたじま健康・長寿のまちづくり」を大学院生や学部学生を中心的役割に据え，推進しています。私ども教員は学生たちの社会貢献パワーを増幅・増強させながら，市民・行政と大学が融和した楽しい企画を継続させます。このような積み重ねを礎に地域のニーズを念頭に全県的なネットワークを構築していきます。

産学連携

〈呉信用金庫〉

本年度も５回シリーズで「商店街活性化セミナー」を開催します。参加者の希望を取り入れたテーマやワークショップなどを企画しました。皆さん熱心にしかも楽しそうに参加されています。

月日	テーマ	講師
4/22	「商店街」とまちづくり	間野　博
6/17	コミュニケーションスキルアップ「顧客満足を目指すおもてなし」	松尾　智晶
9/9	商店街の賑わい再生を目指して米子市の取り組みから	杉谷　第士郎（米子市中心市街地活性化協議会）
11月	大学生からみた商店街	粟島　浩二
２月	地産地食による地域の活性化	加藤　秀夫

公開講座

「広島の武家文化の伝統」

４月11日，18日の両日，中世に育った武家文化と平安時代から続く貴族文化が融合した近世の大名文化を考える講座を開講しました。茶の文化，「源氏物語」，庭園，儀式など，具体的な事例を取り上げて４つの講義を行い，延べ約500名の方々が受講されました。

「鏡の文化誌」

６月の土曜日４週間，計８回にわたって，歴史，文学，美術など，さまざまな角度から鏡の不思議な力，鏡に秘められた謎に迫る講座を開講しました。学内の教員だけでなく，県立歴史民俗資料館とひろしま美術館からも講師を招き，受講者の方々にも好評でした。

「日本と東アジアの関係」

６月から７月にかけて，木曜の夜に計５回，日本と東アジア諸国との関係を歴史，文化，安全保障，経済等，多面的な視点から考える講座を開講しました。毎回，熱心な質問が飛び交う講座となりました。

連携公開講座「みんなでつくろう！ かんたんおやつ」

竹屋公民館と連携し，３回にわたって小学生のおやつづくり講座を行いました。ほうれんそうケーキやおからクッキーなど，家でできる簡単なおやつづくりに，「むずかしくないから，よかった」「すごく楽しかった。おばあちゃんにも，つくってあげたい」などの感想が寄せられました。

夏休み理科教室「のぞいてみよう！ いきものたちの小さな美世界」「体験してみよう！ 光と色のふしぎ」

夏休みの３日間，小学校４～６年生を対象に，学校で使う顕微鏡や走査型電子顕微鏡で昆虫や植物の表面を見たり，光と色の不思議を体験したりする理科教室を開きました。実験で虹や夕焼け空をつくると，子どもたちから歓声があがりました。

研　究　紹　介

地域と文化研究

人間文化学部国際文化学科　准教授　李　　建 志

広島にきて，もう７年目になります。もとは東京生まれで，この大学の前身である広島女子大に赴任する前に，京都の女子大で３年ほど勤めていました。

東京にいたときですが，実家が焼肉屋を営んでいて，一時期は私が店長だった時期もあります。そのせいか，商売にはかなり関心が高い方です。たとえば，「老舗」というものについてですが，京都では明治期に創業した店は本当の意味での老舗ではありません。京都にいた頃「たった百年」ということばもずいぶん耳にしました。これに対し，東京では創業百年といえば大きな暖簾（のれん）です。

広島に赴任したばかりの頃，タウン情報誌の「老舗特集」を見ていて「広島の老舗」は東京とも京都とも勝手が違うことを知りました。広島では創業40年，30年で「老舗」と呼ばれているようで，この町の歴史が，原爆によって切断されていることに改めて気付かされたのです。

さて，文学といえば，作品を読んでその内容を分析することしかないと思われがちですが，私にとっての「文学」とは，新聞広告であったり，落書きだったりを分析することでもありますし，またその向こうにある社会のひずみに光を当てる作業なのです。上のような「老舗」に対する考察も，私にとっては充分「文学」研究の延長にあるものなのです。

民間非営利組織（NPO）のマネジメントに関する研究

経営情報学部経営学科　准教授　五百竹 宏 明

現在，最も関心をもって取り組んでいるのは特定非営利活動法人（NPO法人）の会計・税務を中心とするマネジメントに関する研究です。

わが国には，従来の企業セクターと行政セクターからなる二元的な社会では解決が困難と思われる課題が山積しています。このような状況下，「第三の局」であるNPOセクターが台頭し，社会的にも経済的にも重要な役割を担いつつあります。ところが，わが国のNPOセクターをめぐる制度整備の状況は，欧米諸国に比べて驚くほど遅れています。特に，会計・税制に関しては大きく改善の余地があります。現在，私は全国的な組織であるNPO法人会計基準協議会の専門委員として，新しい会計基準の策定作業に従事しています。

ところで，日本経済新聞社は毎年「全国大学の地域貢献度調査」を実施し，その結果を公表しています。昨年度の地域貢献度第一位の大学は北九州市立大学でした。その大きな理由のひとつとして「地域の子育て特定非営利活動法人（NPO法人）やボランティア団体と協定を結んで多世代交流や生涯学習事業を行うなど，住民や地域団体との連携に力を入れている」ことが挙げられています（2008年10月20日，日本経済新聞朝刊22面）。

本学は，現在のところ地域のNPO法人との協定を結んでいません。NPOセクターの研究を行っている者としては少し残念な思いです。

音楽物語「ぞうのババール」

広島キャンパス図書館のグランドピアノと絵本を活用し，「ぞうのババール」「ペロー童話集」をもとにしたピアノの演奏に合わせて朗読を行いました。図書館の落ち着いた雰囲気のなかで，音楽と朗読をたのしみました。

室内オペラ「よっちゃんのビー玉」

子どもたちに平和の大切さを伝える児玉辰春さんの絵本をもとに，室内オペラを上演しました。「４歳の娘も静かに聴けるほどわかりやすい内容で，音楽もとても素敵なオペラでした」という感想も寄せられました。

１１月以降の講座予定

- **食と健康のサイエンス**
  11月５・12・19日，12月３・10日（木）
  18:30～20:00
- **表計算ソフトを使って万年カレンダーを作ろう！**
  11月７日（土）・８日（日）
  10:30～14:30
- **花の不思議**
  11月21・28日，12月５日（土）
  13:20～16:00
- **はないちもんめ ＆ ヒロシマの河**
  11月28日（土）　13：30
- **じっくり味わう『源氏物語』の名場面**
  １月18・25日，２月１・８日（月）
  10:30～12:00

庄原キャンパス

SHOBARA CAMPUS

三次市との包括協定締結

５月18日，本学と三次市が包括的連携・協力協定を締結しました。本学は平成16年度から三次イノベーション会議の構成員として，また本学重点研究事業，公開講座，三次高校における高大連携公開講座などの取り組みで地域貢献を行ってきました。こうした経過からこれまでの関係を実りあるものにするだけでなく，新たな課題にも取り組み，県立大学として一層社会に貢献でき，三次市としてもさらなる高い行政サービスが可能となるとの認識のもとに，包括的連携・協力協定を締結しました。主な協定事項は次のとおりです。

(1) 環境保全・資源循環分野での共同研究等に関すること
(2) さと山再生に関すること
(3) 人材育成に関すること
(4) 地域づくり・産業振興に関すること
(5) 地域福祉に関すること

上記を踏まえて来年度は，以下のような事業を推進していくことになりました。

(1) 県立広島大学事業・協働プロジェクト
尾道松江線開通の三次市への影響に関する基礎的調査
(2) 環境問題に関する事業計画
① ペレット活用の事業展開
② 尾道松江線工事による環境調査
(3) 大学連携に関する三次市来年度事業計画
地域再生事業（大学のシーズ活用による地域課題解決事業）
(4) 記念企画
生命環境学部シーズ紹介事業

（調印後の赤岡 功学長と村井政也三次市長）

市民公開講座20周年記念企画《庄原市》

「私と庄原 －これからの庄原市のために－」

本講座は庄原市教育委員会との共催によるもので，広島県立大学時代から数えて今年度で20周年を迎えることになります。この20年間の受講生は延べ約１万人になり，その歴史の長さとともに庄原市と本学の密接な関係がうかがえます。今年度は20周年を記念し，学長，生命環境学部長など本学を代表する研究者を講師として，講座を開催することとなりました。講師が自分と庄原市の関係を踏まえながら，自らの専門から庄原市に寄与できるよう話をするものです。

今年度の各講義のテーマは，文学，たたら，植物資源，バイオ，きのこと幅広く，庄原市の文化，環境に深く関わるものになっています。前期の日程としては６月26日から７月21日まで全５回が行われ，延べ172人の市民が受講しました。

第１回　６月26日　学長　赤岡　　功
「なぜ，庄原から世界的文学が生まれたのか？
－マリアと京の少女かえでの物語から庄原の発展を考える－」

第２回　６月29日　名誉教授　野原　建一
「中山間地域の研究とたたら製鉄業の文化」

第３回　７月８日　生命科学科長　入船　浩平
「植物資源の活用をさぐる」

第４回　７月14日　環境科学科長　西村　和之
「バイオマスのエネルギー利用について」

第５回　７月21日　生命環境学部長　森永　　力
「里山再生ときのこ」

同様の趣旨で後期（秋）にも20周年記念企画の講座を行い，本学を代表する教員による講義を実施する予定です。講座の詳細は，庄原市教育委員会生涯学習課社会教育係（0824-73-1188）にお問い合わせください。

しょうばら産学官連携推進機構

６月８日，庄原市内で平成21年度総会を開催し，平成20年度の事業報告と平成21年度の事業計画を決定しました。昨年度，県立広島大学との産学官連携は11件でした。他に，教員からの情報提供の依頼や地域からの学生派遣の依頼もありました。また，研究会やセミナーなどで県立広島大学には協力をしていただきました。今年度は，事業計画として「マッチング事業」，「プロジェクト事業」，「学生と地域社会の交流促進支援」，「講演講習事業」，「ソフト事業」の実施を決定しました。「マッチング事業」では，大学における技術シーズとニーズ，産業界などからのニーズを把握し，それらを相互に紹介・情報提供することによって新規のマッチングを促していきます。また，昨年度から継続しているものについても積極的にサポートを行います。（しょうばら産学官連携推進機構コーディネーター　有田洋人）

国際交流　JICA研修

６月２日～７月11日の間，JICA（独立行政法人国際協力機構）の地域別研修「南東欧地域産業振興政策」プログラムが実施されました。ボスニア・ヘルチェゴビナ（３名），マケドニア（２名），モンテネグロ（１名）の５名が，自国の地域振興の手法を学ぶため研修に参加しました。本学は実施協力機関であり，この間に学長表敬訪問（６月８日）や広島キャンパスでの研修（カントリーレポートの発表，国の課題解決のためのアクションプラン発表）が行われました。また講師として生命環境学部・江頭直義教授，人間文化学部・伊東和久教授，野原建一名誉教授らが産学連携，金融システム，中小企業政策等について講義を行いました。以前の類似した研修から数えて今年で５年目であり，JICA，また研修生から高い評価を得ています。

三次イノベーション会議

６月11日の９時30分から，県立広島大学，三次市役所，三次市商工会議所，三次市広域商工会などの関係者25名が三次ふれあい会館に集まって平成21年度総会を開催しました。赤岡　功学長と村井政也三次市長（会長）の挨拶のあと，規約の一部改正，委員の交代，20年度の事業報告と決算報告，21年度の事業計画・予算などを，原案通り可決しました。本学と三次市との間で包括的連携・協力協定が５月18日に締結されたのをきっかけに，着々と上がっている成果をもとにして，さらに展開していくことになりました。

研　究　紹　介

天然由来生理活性成分に関する有機化学的研究

生命環境学部生命科学科　准教授　野　下　俊　朗

おもに高等植物を対象として，有用な生理活性を持つ天然有機化合物を探索しその化学構造を解明する研究を行っています。また，有機合成化学の手法を用いた農薬・医薬への応用を目指した研究も実施しています。ここではこれまでに行った研究のひとつを簡単に紹介します。

リンゴは大変身近な果物ですが，その皮にはウルソール酸という化合物がかなり含まれています。このウルソール酸は正常な細胞に対して毒性はありません。しかし，ある種の癌細胞に対してはその増殖を強く阻害することがこれまでの研究でわかりました。さらに天然に存在するウルソール酸に構造が類似した化合物のうちいくつかが，ウルソール酸と同じように選択的に癌細胞の増殖を阻害することも分かりました。現在，ウルソール酸およびその類縁化合物が癌細胞と正常細胞とを区別する仕組みを解明するための研究を行っています。ウルソール酸自体は植物界に広く存在しているありふれた有機化合物のひとつですが，癌細胞だけを選択的に攻撃する新規な制癌剤開発のヒントになる化合物なのかも知れません。

リンゴ以外にもいろいろな植物を対象とした研究を行っていますが，本年４月に本学に着任したことをきっかけに，庄原産の山菜に含まれる化学成分に関する研究も開始しました。面白い成分が見つかることを期待して研究を進めています。

地域連携センター長のご紹介

中谷　隆［地域連携センター長］

「地域に根ざす」ことを目標に，様々な形で地域貢献に邁進してまいりました。限られたスタッフでよくここまでできたものだと感慨深いものがあります。スタッフの熱意もさることながら，これもひとえに快くご協力いただいた教職員ならびに地域の関連諸団体や関係者の努力の賜であると感謝しております。「地域に根ざす」ことは「地域に埋没」することではないと言いきかせながら，いかに大学人としての矜持（きょうじ）を保ちつつ地域連携を実りのあるものにするか，まだまだ課題は山積みです。この活動が「大学に根づく」ことも課題です。今後ともご支援のほどお願い申し上げます。

西本寮子［広島地域連携センター長］

広島キャンパスでは，包括協定を結んでいる自治体や企業との連携，生涯学習をふたつの柱として多彩な事業を展開しています。前者にあっては地域の課題に密着したプロジェクトや研究連携の推進，健康増進などをテーマとした連携講座の開催，後者においては立地条件に恵まれたキャンパスの施設と機動力を活かし，幅広い世代を対象とした多様な公開講座の実施などに取り組んでいます。

これからも地域に開かれた魅力ある大学，信頼される大学の最も身近な窓口としての機能を強化し，地域活性化への貢献を目指します。

三好康彦［庄原地域連携センター長］

庄原キャンパスでは，産学官連携，生涯学習，国際交流，包括協定，広報活動等を主な事業としています。

産学官連携では本学は三次イノベーション会議やしょうばら産学官連携推進機構などの構成メンバーとして，地域の活性化に取り組んでいます。また，生涯学習では各種の公開講座や学術講演会など多くの参加者を得て行っています。

特に中山間地域課題に対する本学への要望がますます大きくなっているため，今後，当センターは各教員と一丸となって応える予定です。

近藤　敏［三原地域連携センター長］

三原キャンパスでは，三原市や尾道市，青少年育成広島県民会議，しまなみ信用金庫との包括協定に基づく連携事業を中心に，特に，少子化対策や発達障害児支援など子育て支援のニーズに対して，保健福祉学部の強みを発揮しながら進めます。生涯学習では，公開講座，三原シティカレッジ，脳をみるシンポジウム，出前講座，広島保健福祉学会をこれまで通り開催します。また，地域交流を促進するため，キャンパスツアーや学生ボランティア活動およびトライアスロンさぎしま大会を支援します。昨年に引き続き看護教員養成講習会も開設します。

編集後記

センター報第９号をお届けします。本号には，尾道市・三次市との包括的連携・協力協定締結の紹介など，地域貢献に関する記事を数多く載せています。また，今後の講座などの予定についても触れています。最後のページでは，各地域連携センター長が自己紹介を兼ね，それぞれ取り組んでいる事業や抱負について述べています。皆様にはこれらの記事をご一読いただき，地域に根ざした本学の取組に，ご賛同・ご支援・ご協力をお願いできれば幸いです。（M）

編集発行

県立広島大学地域連携センター［本号編集担当］
〒734-8558 広島県広島市南区宇品東一丁目１番71号
電話（082）251-9534／E-mail：renkei@pu-hiroshima.ac.jp

各キャンパス問合せ先

県立広島大学庄原地域連携センター
〒727-0023 広島県庄原市七塚町562番地
電話（0824）74-1704／E-mail：gakujutu@pu-hiroshima.ac.jp

県立広島大学三原地域連携センター
〒723-0053 広島県三原市学園町１番１号
電話（0848）60-1200／E-mail：mrenkei@pu-hiroshima.ac.jp